

**アークフラッシュ施工された老人施設からは5年間インフルエンザの発症が報告されておりません。**

**鳥インフルエンザ 埼玉県鴻巣市の養鶏場で抗体確認**

農林水産省と埼玉県は18日、同県鴻巣市笠原の採卵養鶏場「イセファーム堤向(つつみむかい)農場」の鶏29羽から、H5型の鳥インフルエンザウイルスに対する抗体が確認されたと発表した。過去に弱毒性の鳥インフルエンザウイルスに感染したとみられる。現在までにウイルスそのものは発見されておらず、周辺養鶏場を含め鶏が大量死するなどの異状は確認されていない。茨城県水海道市で鳥インフルエンザウイルスが検出されたことを受け、同省が実施している全国一斉調査で初めて見つかった。同省は「埼玉県内では、別の養鶏場で検出はない。これ以上の感染の広がりには考えにくい」と話している。

埼玉県は18日、上田清司県知事を議長とする緊急対策本部を設置。家畜伝染病予防法に基づき、同養鶏場を中心とした半径5キロ以内の計4養鶏場の鶏や卵の移動制限を命じた。また、同養鶏場で飼育している鶏約9万8300羽の殺処分を決定した。

同養鶏場は毎日約7万6000個の液卵を茨城県内の食品工場に出荷し、卵焼きやケーキなどに加工されていた。加工食品の出荷先は分かっていない。埼玉県は「出荷された卵は火を通して加工されていたため問題はない」としている。同養鶏場は16日に県から「抗体検出」の報告を受け、17日から鶏と卵などの出荷を自粛している。

抗体は、県中央家畜保健衛生所で16日、同養鶏場の採卵鶏10羽の血清抗体検査をしたところ、1羽で陽性反応がでた。県はさらに別の30羽を追加検査したが陰性だった。県は茨城県つくば市の動物衛生研究所に精密検査を依頼し、18日に最初の10羽すべてからH5型の抗体が検出され、追加の30羽のうち19羽からも陽性反応がでた。

抗体が検出された29羽はすべて茨城県の系列養鶏場から移された鶏だが、系列養鶏場は水海道市で鳥インフルエンザが発生した際に移動制限対象になった範囲外にあり、農林水産省で感染経路の特定を急いでいる。

**<<大型受注相次ぐ>>**

関東エリアで活動中のアークフラッシュ施工店に大手ゼネコンより大型受注が相次いでおります。いずれも工事は今年10月から来年、再来年の予定だが、設計からアークフラッシュが取り上げられるようになり関東エリアの施工店は施工人員確保に奔走しています。

### <<GTC 東京に営業所開設>>

群馬県の会員、有限会社ジーティーシーは東京千代田区神田に営業所を開設しました。

### <<大手ゼネコン前田建設工業役員室全部改修>>

大手ゼネコンで名高い前田建設工業本部ビルの役員室が全面改装に際し、アークフラッシュ施工が採用になりました。8月28日午前9時より施工工事がスタートします。施工には関東エリアの施工店、数社と新潟から1社参加します。

### <<プールバーのオーナーの驚き>>

神奈川県のパールバー(写真参照)を有限会社ベロモンドが施工しました。とんでもないぐらいの煙草臭と埃臭がした所が、Uクリーンで清掃後、アークフラッシュ加工によりオアシスに変貌した。オーナーも感激！！、又、アークフラッシュの神話ができました。



### <<中国でも環境問題??>>

改装した直後の部屋に住んでいたたり、家具を購入したばかりの妊娠している女性を対象に、シックハウス症候群を引き起こすといわれているホルムアルデヒドの濃度を無料で測定するキャンペーンが北京市で初めて実施されている。8日付で北京青年報が伝えた。

これは、北京市建築装飾協会が8日から行っているもので、妊娠している女性の自宅のホルムアルデヒドの濃度を測定する。濃度が高かった場合には、女性は無料で汚染除去のサービスが受けられる。

幼児の先天異常(畸形)や白血病、喘息、肺炎などは、母体の胎内で成長しているときに、内装の塗料や家具からの有害物質で汚染された空気を吸うことと一定の関係があるとされている。

発行責任者:株式会社アークフラッシュ本部

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 [honbu@arc-flash.com](mailto:honbu@arc-flash.com)

1号~20号までを配信希望の方はメールにて申込ください。